

【A年】

聖霊降臨後第十九主日

特定二十三

わたしたちの避けどころ、力であり、また信仰の源である神よ、どうか主の教会が信仰をもって献げる祈りに耳を傾け、真心をもって願い求めることをかなえてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

司祭 「聖書のみ言葉を聞きましょう」

会衆は着席する。

旧約聖書

朗読者 「旧約聖書はイザヤ書第二十五章一節から」

1 主よ、あなたはわたしの神

わたしはあなたをあがめ
御名に感謝をささげます。

あなたは驚くべき計画を成就された
遠い昔からの揺るぎない真実をもって。

2 あなたは都を石塚とし
城壁のある町を瓦礫の山とし

異邦人の館を都から取り去られた。
永久に都が建て直されることはないであろう。

3 それゆえ、強い民もあなたを敬い
暴虐な国々の都でも人々はあなたを恐れる。

4 まことに、あなたは弱い者の砦
苦難に遭う貧しい者の砦

豪雨を逃れる避け所

暑さを避ける陰となられる。

5 暴虐な者の勢いは壁をたたき豪雨
乾ききった地の暑さのようだ。

あなたは雲の陰が暑さを和らげるように
異邦人の騒ぎを鎮め

暴虐な者たちの歌声を低くされる。
6 万軍の主はこの山で祝宴を開き

すべての民に良い肉と古い酒を供される。
それは脂肪に富む良い肉とえり抜き酒。

7 主はこの山で
すべての民の顔を包んでいた布と

すべての国を覆っていた布を滅ぼし
8 死を永久に滅ぼしてください。

主なる神は、すべての顔から涙をぬぐい

御自分の民の恥を

地上からぬぐい去ってください。

これは主が語られたことである。

9 その日には、人は言う。

見よ、この方こそわたしたちの神。

わたしたちは待ち望んでいた。

この方がわたしたちを救ってください。

この方こそわたしたちが待ち望んでいた主。

その救いを祝って喜び躍ろう。

朗読者 「旧約聖書を終わります」

詩編

腰掛けたままで、一節ずつ交互に唱える。

第二十三編

1 主はわたしの牧者＝わたしは乏しいことがない

2 神はわたしを緑の牧場に伏させ＝憩いの水辺に伴わ

れる

3 神はわたしの魂を生き返らせ＝み名のゆえにわたし

を正しい道に導かれる

4 たとえ死の陰の谷を歩んでも、わたしは災いを恐れな

い＝あなたがわたしとともにおられ、あなたの鞭と杖はわたしを導く

5 あなたは敵の見ている前でわたしのために食卓を整え

＝わたしの頭に油を注ぎ、わたしの杯を満たさる

6 神の恵みと慈しみは、生きている限り、わたしに伴い

＝わたしは永遠に主の家に住む

使徒書

朗読者 「使徒書はフィリピの信徒への手紙第四章 四節か

ら

4 主において常に喜びなさい。重ねて言います。喜びなさい

5 あなたがたの広い心がすべての人に知られるようにな

さい。主はすぐ近くにおられます。6 どんなことでも、思い煩

うのはやめなさい。何事につけ、感謝を込めて祈りと願いを

ささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。7 そうすれ

ば、あらゆる人知を超える神の平和が、あなたがたの心と考

えとをキリスト・イエスによって守るでしょう。

8 終わりに、兄弟たち、すべて真実なこと、すべて気高い

こと、すべて正しいこと、すべて清いこと、すべて愛すべき

こと、すべて名譽なことを、また、徳や称賛に値すること

があれば、それを心に留めなさい。9 わたしから学んだこと、

受けたこと、わたしについて聞いたこと、見たことを実行しなさい。そうすれば、平和の神はあなたがたと共におられます。

10 さて、あなたがたがわたしへの心遣いを、ついにまた表してくれたことを、わたしは主において非常に喜びました。今までは思いはあっても、それを表す機会がなかったのです。11 物欲しさにこう言っているではありません。わたしは、自分の置かれた境遇に満足することを習い覚えたのです。12 貧しく暮らすすべも、豊かに暮らすすべも知っています。満腹していても、空腹であっても、物が有り余っていても不足していても、いついかなる場合にも対処する秘訣を授かっています。13 わたしを強めてくださる方のお陰で、わたしにはすべてが可能です。

朗読者 「使徒書を終わります。」

一同立つ。

ここで聖歌を歌う。

福音書

司祭 「主は皆さんとともに」

会衆 「また、あなたとともに」

司祭 「聖マタイによる福音書第二十二章一節以下に記された主イエス・キリストの福音。主に栄光」

会衆 「主に栄光がありますように」

1 イエスは、また、たとえを用いて語られた。2 「天の国は、ある王が王子のために婚宴を催したのに似ている。3 王は家来たちを送り、婚宴に招いておいた人々を呼ばせたが、来ようとしなかった。4 そこでまた、次のように言って、別の家来たちを使いに出した。『招いておいた人々にこう言いなさい。『食事の用意が整いました。牛や肥えた家畜を屠つて、すっかり用意ができています。さあ、婚宴においでください。』』5 しかし、人々はそれを無視し、一人は畑に、一人は商売に出かけ、6 また、他の人々は王の家来たちを捕まえて乱暴し、殺してしまった。7 そこで、王は怒り、軍隊を送って、この人殺しどもを滅ぼし、その町を焼き払った。8 そして、家来たちに言った。『婚宴の用意はできているが、招いておいた人々は、ふさわしくなかった。9 だから、町の大通りに出て、見かけた者はだれでも婚宴に連れて来なさい。』10 そこで、家来たちは通りに出て行き、見かけた人は善人も悪人も皆集めて来たので、婚宴は客でいっぱいになった。11 王が客を見ようと入つて来ると、婚禮の礼服を着ていない者が一人いた。12 王は、『友よ、どうして礼服を着ないでここに入つて来たのか』と言った。この者が黙っていると、13 王は側近の者たちに言った。『この男の手足を縛って、外の暗闇にほうり出せ。そこで泣きわめいて歯ぎしりするだろう。』

14 招まねかれる人ひとは多おほいが、選えらばれる人ひとは少すくない。」

司祭 「主しゅに感かん謝しや」

会衆 「主しゅに感かん謝しやします」